

大震災被災者支援

印西市

稲刈り祭り アカガエルの里



約5千平方メートルある田んぼには100名を超す参加者が繰り出し、終日賑わった。

稲刈

ぼで田植えを行っているが、自分の植えた苗の場所を確認しながら、うれしそうに刈り取る人の姿も見られた。最近の稲作ではコンバインで一気に収穫するのが主流だが、昔ながらの方法には感激がある。

お裾分けしている。アカガエルの里では自然保護の立場から無農薬で米を栽培しており、周りには小動物や植物も豊富で、7月にはここでザリガニ釣りイベントなども行われている。

印西市松虫にあるアカガエルの里の谷津田で、先月13日、「大震災被災者支援・稲刈り祭り」が開催された。社会福祉法人「いんば学舎オソロク倶楽部」、自然保護サークル「いには野アカガエルの里を守る会」の共催で、

り祭りのイベントは今年で8年目。昔ながらの手作業で、鎌を使って刈り取り、束ねて縛り、天日で乾燥させるための稲架に掛ける「はさがけ」作業までを手分けして行った。

作業後はいんば学舎提供の収穫したばかりの無農薬の新米を羽釜で炊き、参加者に昼食として振る舞われた。新鮮なさんまや手作りの味噌汁などと共に、自然の中で味わう新米の味は格別だ。

参加費はワンコイン500円だが、一部は被災地に寄付し、収穫したお米も今なお大震災で市内に避難されている世帯に

「家族と一緒、直接自然に触れ、開発により失われていく里山の自然と景観を保全し、再生していくことの大切さを学ぶ機会にしてほしい」と話すのは主催者の一人、関根庄五郎さん。田植えや稲刈りなどの行事に、来年こそは参加してみたいかがだろう。

▽問い合わせ ☎0476・98・1307 (関根さん)